

「福島第一原子力発電所・事故の収束に向けた道筋」の進捗状況について

1. 基本的考え方(変更なし)

原子炉および使用済燃料プールの安定的冷却状態を確立し、放射性物質の放出を抑制することで、避難されている方々のご帰宅の実現および国民の皆さまが安心して生活いただけるよう全力で取り組む。

2. 目標・達成時期

【ステップ1:放射線量が着実に減少傾向となっている】

- 至近 2 ヶ月において、モニタリングポスト等が示す放射線量の値は減少傾向。
- 一方、発電所港湾内の海水の放射能濃度は依然として高いため、循環型海水処理装置を稼働し、除染を開始(6/13)。
- 今後 1 ヶ月での目標達成に向けて、特に原子炉での目標「安定的な冷却」のために以下の具体策を遂行する。
 - ・ 滞留水を増やさずに、原子炉内の熱除去に必要な量の注水(循環注水冷却の開始)
 - ・ 水素爆発の回避(窒素充填)
- 循環注水冷却実施の要件は、今後、処理施設が安定的に稼働すること。
- 燃料プールの目標「安定的な冷却」は、今後 1 ヶ月で全基達成に目処。

【ステップ2:放射性物質の放出が管理され、放射線量が大幅に抑えられている】

- 目標・達成時期に変更なし。

3. 至近 1 ヶ月の総括と今後の取組み(主な変更点)

① 分野と課題の追加

資料1『当面の取組(課題/目標/主な対策)のロードマップ』ご参照

- ・ 前回公表時(5/17)には、5 つの分野(「冷却」、「抑制」、「モニタリング・除染」、「余震対策等」、「環境改善」と 8 つの課題(「原子炉」、「燃料プール」、「滞留水」、「地下水」、「大気・土壌」、「測定・低減・公表」、「津波・補強・他」、「生活・職場環境」)を設定。
- ・ この 1 ヶ月での取り組みを反映し、1 つの課題(「放射線管理・医療」)を追加し、5 つの分野と 9 つの課題に再整理。
- ・ これに伴い、課題への対策数は 81(前回 76)。

② 「課題(1)原子炉」:循環注水冷却は間もなく開始予定

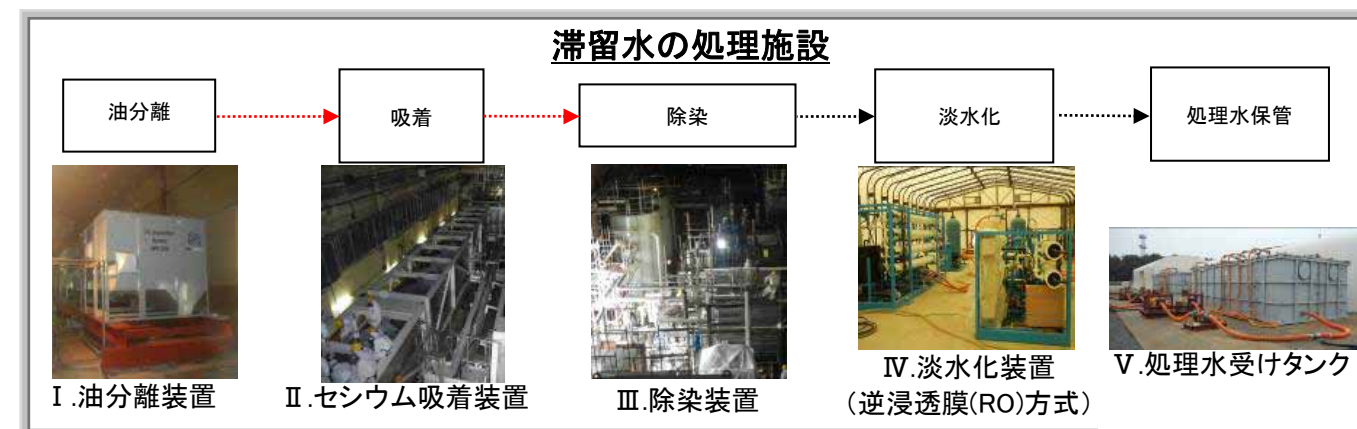
- ・ 循環注水配管布設等の工事完了。滞留水処理施設の稼働後に、循環注水冷却を開始予定。
- ・ 2,3 号機の窒素充填も今後 1 ヶ月を目途に開始予定(1 号機は既に充填中)。

③ 「課題(2)燃料プール」:2 号機の循環冷却開始

- ・ 2 号機は熱交換器による循環冷却を開始し、ステップ2の目標「より安定的な冷却」に到達(5/31)。
- ・ 1,3 号機は通常ラインによる注水を開始し、ステップ1の目標である建屋内における注水(「安定的な冷却」)に到達(1 号機 5/29、3 号機 5/16)。
- ・ 4 号機は今後 1 ヶ月を目途に「安定的な冷却」到達を目指す。

④ 「課題(3)滞留水」:処理施設は間もなく運転開始予定

- ・ 処理施設は間もなく運転開始予定。建屋内の滞留水を処理することにより、環境への意図しない漏洩リスクを低減していく。
- ・ この処理施設の安定稼働の確保が課題。タンクや別の処理施設等の増強を準備中(8 月目途)。
- ・ 処理水を受け入れるタンクを順次増設予定(既に 13,000 トン完成、7 月は 40,000 トン、その後毎月 20,000 トン)。
- ・ 処理に伴い発生する放射能濃度の高い廃スラッジは適切に保管。



⑤ 「課題(9)放射線管理・医療」:被ばく評価と夏季熱中症対策を推進

【放射線管理】

- ・ 個々の作業時間を厳格に管理。
- ・ 政府の支援の下、内部被ばくを評価するため、ホールボディカウンタ(体内放射線計測器)を今後増設。
- ・ 線量カウンタの自動記録化など、放射線管理を今後強化。

【医療】

- ・ 政府の支援の下、医師を免震重要棟に 24 時間常駐。今後医師を増員、及び診療所を新設。
- ・ 休憩所も増設中。